

日本海軍の軍楽隊の発祥そして ジャズのメッカ横須賀

日本海軍の軍楽隊は、明治2年に薩摩藩伝習生が横浜の本牧山妙香寺で英国陸軍軍楽隊フェントン隊長から指導を受けたのが最初です。

その後明治5年2月に軍楽隊は海軍省に所属することになります。

軍楽隊隊員は皆横須賀で学んだ

明治23年に軍楽隊員の本籍が横須賀海兵団に定められ、以後軍楽兵の教育訓練は、終戦まで横須賀で行われた。

約2,500名の海軍軍楽隊出身者は、戦前、戦後を通じて演奏者として、また指導者として全国で活躍しました。



●ジャズのビッグバンド「原信夫とシャープス&フラッツ」のリーダーとして活躍したサックス奏者の原信夫（はら・のぶお、本名・塚原信夫=つかはら・のぶお）さん死去（2021年6月21日94歳）

●富山市出身。横須賀海軍軍楽隊に入隊し、終戦後は進駐軍相手にクラブで演奏、1951年にシャープス&フラッツを結成した。

●カウント・ベイシーやデューク・エリントンらの米国の一流楽団の演奏スタイルを吸収。躍動感のある演奏が海外の音楽家からも注目され、60年代にはアート・ブレイキー&ザ・ジャズ・メッセンジャーズやベイシー楽団と共演。ナット・キング・コールらの来日公演時には、バックバンドを務めた

後期の覺舎 (職工学校)

横須賀製鉄所(製鋼所)

職工学校
横須賀覺舎(こうしゃ)



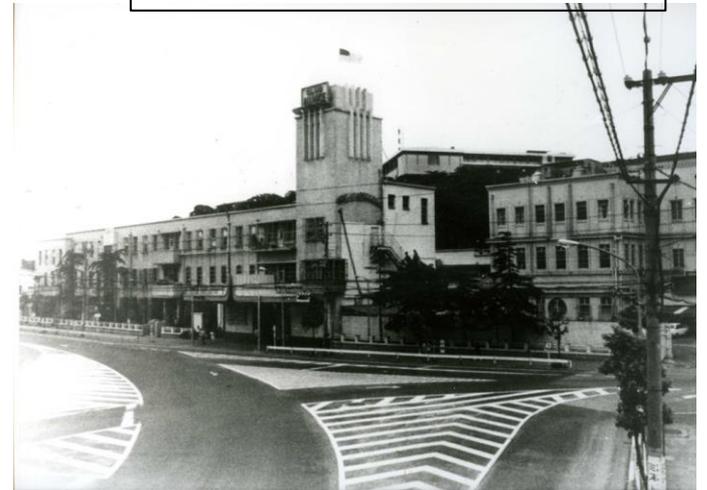
下士官兵集会所



行状市誌 日七十二月一年五十年昭和 (所會集兵官上下家海) 部支賀田横會(海) (所名賀須横)
西町三武の會堂の製鐵六第計横



米海軍下士官クラブ EMクラブ



よこすか芸術劇場



横須賀市自然・人文博物館編「横須賀製鉄所(造船所)創設150周年記念展「すべては製鉄所から始まった」より

海軍軍楽隊隊員は EMクラブでジャズの影響を受ける

終戦時海軍軍楽隊員は、それぞれ貸与されていた担当楽器を与えられて復員し、やがてその楽器で進駐軍のキャンプやクラブのバンドで生計を立てる者が多かった。

横須賀の海軍下士官兵集会所は進駐軍EMクラブとなり、ジャズのメッカとして多くのバンドマンを育てた。

海軍軍楽隊出身の原信夫、海老原啓一郎は代表的なジャズメンである。

全国に広まってゆく

戦後全国で編成された警察、消防の音楽隊長は、軍楽隊出身者が大部分を占めていた。

海上自衛隊音楽隊長も、初期は海軍軍楽隊出身者であった。

元海上自衛隊東京音楽隊長
谷村政次郎氏著「海の軍歌と禮式曲」を参考